



西栗倉村長 道上 正寿

二期8年が経過して、「光陰矢のごとし」という諺を身を持って感じる日々が続いています。西栗倉への「将来の夢」と「反省の思い」が交差して、「やる気」と「弱気」が、ややもすれば同居しながらの三期目の挑戦になりましたが、無投票という身に余る審判をいただき、心より感謝申し上げます。

しかし一方では、これからの4年間の舵取りの厳しさが証明されたともいえます。

いずれにしろ、引き続き「小さな山間の西栗倉の持続への挑戦」になります。繰り返し申し上げますが、「過去が咲いている今、将来のつぼみで一杯な今」を政策理念として、激動する社会情勢での今日の課題、将来の西栗倉の夢

に向かって、「住民の皆様と二人三脚でしかもスクラムを組んで、身の回りの色々な問題を自分の問題として、一つ一つ解決し、積み重ねて次の世代にバトンタッチすること」が、私の使命です。

国外では地球温暖化、資源の逼迫など経済行為の限界がサミットの議題になりながら、問題はいまだ解決されません。国内では国際化、財政状況の厳しさ、道州制、医療制度改正等マクロの視点での広域的な流れを無視することはできません。「大きく構える政策展開と小さく捉える身近な住民サービス」の整合性を図りながら「小さいからできる低コスト満足社会」を目指します。

また、西栗倉のすぐれた利便性、整備された社会資本を生かしながら、さらに上質な社会政策に挑戦して「ゆとりと豊かさを実感でき、住んでみたくなるような上質な田舎づくり」に向けて全力で取り組みむ所存です。

今後解決すべき西栗倉が抱える問題点がいくつもあります。まず一つ目として、地方分権と道州制、広域行政と独立独歩の問題があります。

先の参議院選挙の結果を格差、地方の反乱、年金の将来不安などと結論づける論調が目につきますが、地域社会の存続の条件は、近

隣市町村との健全な補完の関係と権限と財源の移譲と考えます。小さいからできる低コストの住民サービスを実施し、地域に提案し続けていくことが分権社会の姿です。仮に近い将来合併議論が高まれば、「全村民が膝を交えて、逆らわず、迎合せずを主眼に、住民と共に語り、考え、行動するリーダーシップ」を持つ覚悟です。

次に村財政ですが、将来の予測についてはかなり厳しいものがあります。

西栗倉では、複数年度予算の徹底、起債残高の厳守、集中改革プランの継続、組織の見直し、森の村公社の慢性的な赤字体質からの脱却に取り組んでおり、この行財政改革を堅持することで、将来に向けて財政の余裕を確保することが可能と考えます。今後も時代背景を冷静に分析しながら「村の健全経営」に日々邁進して、次世代が健全財政で飛躍できる体制をつくります。

次に高齢化の問題ですが、これは現実的な日々の課題です。

西栗倉には、長年培った「健康への思い」の成果があります。さらに時代背景を整理した「小さいからできる顔の見えるサービス」と、小さいから可能な「低コスト満足社会」を座標軸に在宅介護、在宅医療を中心にした、さらなる上質なサービスと総コストの低減、

福祉で村づくりに挑戦します。次に定住と子育てを一体的に捉えた子育て支援も、重要な施策です。

保育・幼稚園・小中学校を「村の子育て」と捉えて、連携の強化、問題の共有を行い、村の子育てとしての将来ビジョンを明確にします。さらに情報化・国際化に対応しながら、村への思いや、「村じゃけんできる」自然を生かした環境教育の充実を図り、地域が育てる「のびのびゆとり教育」を強く推進します。

次に、農林業ですが、状況は極めて厳しいと言わざるを得ません。ただ、温暖化、国際商品としての木材の価値が高騰していることからすると、長期展望での農林業分野には追い風が吹いています。また都市部で効率・簡便化が優遇されればされるほど、対極として森林が持つ癒しの資源が貴重になります。「100年先の村の夢」から逆算しての議論や今日のやるべき課題を克服し、農林業を含めた村の資源を光り輝かせる企画を考え、販売していく戦略を株式会社西栗倉として挑戦します。色々な問題が山積していますが、時代背景を冷静に分析しながら解決する覚悟です。変わらぬご支援をお願いしましてご挨拶とさせていただきます。